

平成26年（2014）8月 入域観光客数概況

8月の観光客数は、**73万3,300人**
 対前年（H25）同月比 **+2万7,800人、+3.9%**
 ～2年連続70万人超、単月の過去最高を更新～

入域状況

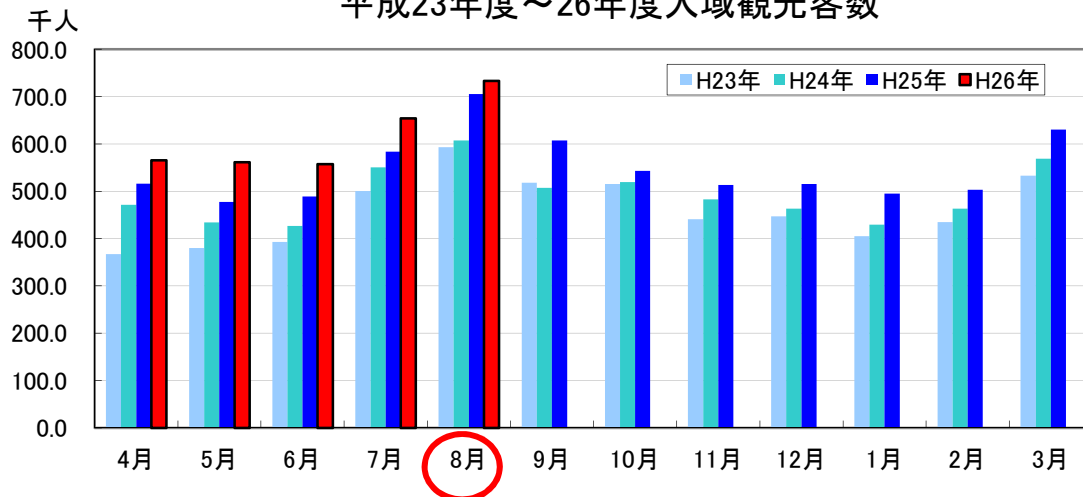
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	649,100人	645,100人	+ 4,000人	+ 0.6%	88.5%
外国客	84,200人	60,400人	+ 23,800人	+ 39.4%	11.5%
合計	733,300人	705,500人	+ 27,800人	+ 3.9%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	649,100人	645,100人	+ 4,000人	+ 0.6%	89.8%
外国客	73,600人	53,000人	+ 20,600人	+ 38.9%	10.2%
合計	722,700人	698,100人	+ 24,600人	+ 3.5%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

8月は、沖縄観光のトップシーズンであり、円安や景気回復基調の継続、沖縄旅行の人気により、増加が期待されたが、前半は台風11号・12号の影響でやや下回り、後半にかけて盛り返したものの、前年度並となった。

9月は、遅い夏休み旅行や2回の連休により旅行需要が継続するとみられ、予約状況も好調であることから、前年度を上回る見込み。

外国客 入域状況

8月は、夏場の旅行需要が高まる時期であり、空路・海路ともに好調に推移した。海路客は、スーパースターアクエアスの寄港回数の増により、前年度を上回った。

9月は、クルーズ船の寄港予定回数が前年度より大幅に増加していることから、海路客が好調に推移する見込み。空路客は、中華航空の台北－那覇路線の機材大型化に加え、シンガポールからのチャーター便など、主要方面以外からの入り込み増も期待できる。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	335,600 人	323,400 人	+ 12,200人	+ 3.8%	51.7%
関西方面	131,100 人	132,600 人	△ 1,500人	△ 1.1%	20.2%
福岡方面	71,500 人	74,100 人	△ 2,600人	△ 3.5%	11.0%
名古屋	50,700 人	50,500 人	+ 200人	+ 0.4%	7.8%
その他	60,200 人	64,500 人	△ 4,300人	△ 6.7%	9.3%
合計	649,100 人	645,100 人	+ 4,000人	+ 0.6%	100.0%

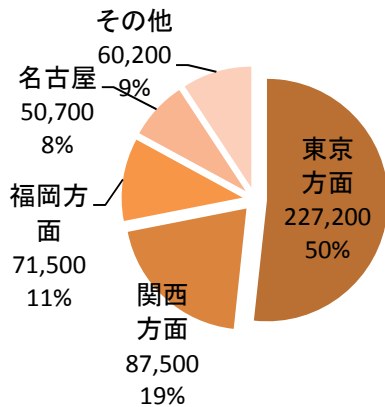
※国内海路客3,500人を含む(東京:100人、鹿児島:3,400人)

外国客 国籍別入域状況

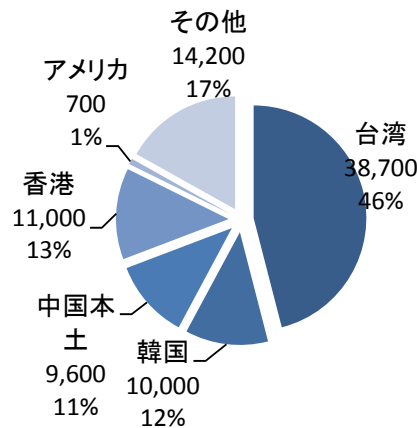
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	38,700 人	38,700 人	29,300 人	+ 9,400人	+32.1%	46.0%
韓国	10,000 人	10,000 人	7,200 人	+ 2,800人	+38.9%	11.9%
中国本土	9,600 人	9,600 人	5,100 人	+ 4,500人	+88.2%	11.4%
香港	11,000 人	11,000 人	9,400 人	+ 1,600人	+17.0%	13.1%
アメリカ	700 人	700 人	500 人	+ 200人	+40.0%	0.8%
その他	14,200 人	3,600 人	8,900 人	+ 5,300人	+59.6%	16.9%
合計	84,200 人	73,600 人	60,400 人	+ 23,800人	+39.4%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	24,500 人	24,500 人	+37.6%	41.2%	14,200 人	14,200 人	+23.5%	57.3%
韓国	10,000 人	10,000 人	+38.9%	16.8%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	9,600 人	9,600 人	+174.3%	16.2%	0 人	0 人	皆減	0.0%
香港	11,000 人	11,000 人	+19.6%	18.5%	0 人	0 人	皆減	0.0%
アメリカ	600 人	600 人	+20.0%	1.0%	100 人	100 人	-	0.4%
その他	3,700 人	3,600 人	+19.4%	6.2%	10,500 人	0 人	+81.0%	42.3%
合計	59,400 人	59,300 人	+43.8%	100.0%	24,800 人	14,300 人	+29.8%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

8月は、台風の影響により上旬は落ち込んだが、それ以降は好調であったため、前年度を上回った。前年度より拡充した石垣路線およびLCCが押し上げ要因となった。また、テレビ等のメディア露出が多かったことも好調につながったよう。

9月以降は、航空各社・旅行社とも予約状況が好調であり、順調に推移する見込み。予約の早期化等により、直近の9・10月より11月が大きな伸びを見せている。

大阪

8月は、台風および運休・減便等の影響により、関西方面全体の提供座席が減少したため、やや減となった。団体旅行や、那覇経由便を含めた離島方面への旅行は好調であった。

9月以降は、連休中の予約状況も順調であることから、好調に推移する見込み。

福岡

8月は、予約状況は前年度並みであったが、台風の影響や関西などの他地域との競合により、前年同月よりやや減となった。一方で高価格帯商品が好調であった。

9月以降は、福岡ー那覇路線で増便が予定されているが、昨年の九州ブロックPTA研究大会のような特需が今年は期待できないことから、鈍化する見込み。

名古屋

8月は、台風の影響を受けたものの、スカイマークの名古屋ー那覇路線の夏季増便やANAの石垣直行便の好調により、ファミリー層を中心に前年度をやや上回った。

9月以降は、予約状況が良好であることから、引き続き好調に推移する見込み。低価格ツアーの販売により、さらなる入込増が期待出来る。

台湾

8月は、訪日旅行のピークの時期であり、沖縄方面も航空路線の拡充、チャーター便の就航、クルーズ船の寄港回数が増により、空路・海路ともに増加した。

9月は、中華航空の台北ー那覇路線で機材の大型化が予定されており、海路客もクルーズ船の寄港回数が増加し予約状況もよいことから、引き続き好調に推移する見込み。

韓国

8月は、夏の旅行シーズンと航空路線の拡充により、前年度を上回った。学校の夏休み期間ということもあり、家族連れのパッケージ旅行が増加したよう。

9月は、秋夕の連休期間はチャーター便が予定され、旅行商品の販売も好調だが、それ以降はやや落ち込む見込み。10月は、連休やジンエアーの増便、クルーズ船の寄港により空路海路ともに増加が期待出来る。

中国本土・北京

8月は、夏休みの旅行需要で訪日旅行全体が好調であり、沖縄方面についても空路客を中心に増加した。天津航空・中国国際航空ともに高い搭乗率を維持している。

9月は、中秋節の連休以後は旅行需要がやや落ち込む見通し。10月は、国慶節にチャーター便が予定されていることから、空路客の増加が期待できる。

中国本土・上海

8月は、夏休みの旅行需要の高まりと前年度より拡充した航空路線の影響により、空路客が増加した。

9月以降は、中秋節・国慶節の連休による旅行需要と、クルーズ船の寄港による海路客の増加が見込まれることから、前年度を上回る見込み。

香港

8月は、夏場の需要拡大期にあたり、団体客・個人客ともに好調に推移し、前年度を上回った。現地の旅行雑誌で宮古島の特集が組まれるなど、離島への関心も高いよう。

9月以降は、秋の紅葉シーズンに向け、日本の他地域(関西・中部・北海道)に人気が集まるため、沖縄方面はやや鈍化する見通し。